

がん闘病服で笑顔

おしゃれをして闘病生活を明るく彩りませんか。そんなメッセージを込めたがん患者向けのファッションが考案された。大阪の患者と家族らがアイデアを出し合い、服飾スクールの生徒の協力を得て仕上げた計15組。16日にファッションショーを開き、患者らがモデルになって披露する。

(高木智子)

あす大阪でショー

胸にボリュームたっぷりのフリルをあしらったブラウス、脇腹にファスナーをつけたふわりとしたチュニック。一ヒューマンアカデミー大阪校(大阪市)の教室にピンクや水色などの服が並ぶ。「患者さん一人ひとりに合うものを作りました」と森本紋子さん(19)。生徒7人で手がけたという。

ブラウスは、乳がんで乳房を摘出した女性向けだ。チュニックは、ストーマ(人工肛門)の使用者が服を着たままパウチ(袋)の位置を整えられるよう

患者・家族ら考案

に工夫した。

八つの患者・家族団体でつくる「大阪がん医療の向上をめざす会」(大阪市)が企画した。会のメンバーで、2007年に胸腺がんで亡くなった山本孝史・前参院議員の妻ゆきさん(58)らが1月から準備を進めてきた。

大阪府内のがん診療拠点38病院の患者ら202人にアンケート。「摘出した乳房の部分に肩パッドを入れた」「髪の毛が抜け、洗濯しやすいタオルで帽子を作った」などのアイデアが寄せられた。「車いすのタイヤで袖が汚れるのが気になる」と伝えた角谷千恵さん(57)。点滴の管を通ししやすいよう袖口を大きく開けた薄緑のニットに真っ白な腕カバーのファッションで当日、モデルとして登壇する。

ショーでは、ゆったりしたセーラー襟の子どもの用の「制服」も披露される。昨年11月に長男結人君(当時8)を小児がんで亡くした田村亜紀子さん(36)の意見がもとになった。結人君に気分を切り替えてほしかったから、院内学級に行く時はパジャマから洋服に首替えさせていた。田村さんは「少しの工夫で、笑顔になれます」と話す。

ショーは、16日午後2時からドーンセンター(大阪市中央区大手前1丁目)である患者と家族の応援イベントの中で開かれる。無料。問い合わせは中村弘子さん(080・5633・1589)へ。



②フリルで胸元にボリュームを出したブラウス。左右の胸の大きさの違いを外側のデザインでカバーした③ストーマ利用者向けのチュニックはロングスカートをリメイク。圧迫感をなくし、ファスナー部分からパウチの位置を調整しやすくした＝いずれも大阪市中央区、高木写す